

授業日時 2021年8月31日(火) 第2校時
 授業学級 2年C組
 授業会場 音楽室
 授業者
 指導者

1 題材名 「曲の構成に注目しながら、曲想の変化を味わおう」

2 題材の目標

ア【知識及び技能】

第1楽章を中心に、反復・変化・対照などによる楽曲構成やソナタ形式について知る。

イ【思考力・判断力・表現力等】

オーケストラの楽器の音色やその組み合わせによる表現の豊かさを感じ取る。

第1楽章及び全楽章を通して鑑賞し、交響曲のダイナミックな表現の良さを感じ取る。

ウ【学びに向かう人間性】

ベートーヴェンの生涯や主な楽曲を知ること、日常生活で聴く機会を作るなど、豊かな生活を営むことに思いをもつ。

3 題材展開

学習活動	時間
・オーケストラ版の演奏を聴き、作曲者や楽曲について知っていることや初感・新たに疑問に思ったことを共有し、作曲者について知る。 ・冒頭部分の音形を取り上げ、「動機」という用語が付けられているということを知る。	第1時
・「動機」が第2楽章～第4楽章まで引き続き出てくることを確かめる。 ・第1楽章を4つの大きなまとまりに分け、それぞれのまとまりに名前がついていることを確認し、提示部→展開部→再現部→コーダ(終結部)という構成が「ソナタ形式」と呼ばれていることを知る。	第2時
・リスト編曲のピアノ版『交響曲第5番』(演奏：グレン・グールド)を鑑賞し、ピアノ版の良さ、オーケストラ版の良さを比較して、ワークシートに記入する。 ・バイオリン、クラリネット、ホルンの音に絞って一通り聴き、各楽器の特徴について気付いたことを記入し、第1楽章を聴きながら楽器の音色が曲調と合わさっていることを感じる。	第3時

4 本時の主眼

ベートーヴェン「交響曲第5番」の第1楽章を聴く場面で、ベートーヴェンの生涯や、『運命』というタイトルが付けられた背景を知ることを通して、この曲の特徴である「動機」が「交響曲第5番」を印象付ける要素になっているということに気づくことができる。

5 本時の位置

〈前時〉なし

〈次時〉動機に着目しながら第一楽章を4つのまとまりに分け、それぞれ提示部、展開部、再現部、コーダ(終結部)と名前が付けられ、「ソナタ形式」という形式を作っていることを知る。

6 指導上の留意点

ベートーヴェンの交響曲第5番は日本で「運命」と題され、多くの人が「有名な曲だ。」と認識しているよう

な楽曲であるため、音楽経験の有無や学校外でのクラシック音楽に触れる機会(テレビ番組なども含む)の有無によって学級内でも前提条件に差が見られると想定される。生徒たちからは、問いに対してこれまでに知っていることを踏まえて様々な反応が出てくることが予想される。

7 展開

	学習活動	予想される子どもの反応	「授業者の主な発問」・※留意点・【教材】	時間
導入	1. オーケストラ版の「交響曲第5番」の第1楽章を聴く。【全体】	「知っているよ」 「聴いたことある」 「ジャジャジャジャーんだ」 「“運命”じゃない？」 「絶望的な感じ」 「激しい曲だよ」	「みんなは、この曲聴いたことあるかな。知っている？」 「聴いて感じたことや、知っていること・知りたいことなどを書き出してみよう」【ワークシート】	7
	2. 聴いて感じたことや、知っていることなどを共有する。【全体】	「ちょっと明るいところもあった」 「確かベートーヴェンだったはず」 「耳が聞こえなくなった人？」 「何で“運命”っていうタイトル？」 【学習課題】「運命」の秘密を探っていこう	「なるほど、〇〇な感じは、曲のどんなところからどう感じたのかな。」 「疑問がたくさん出てくるね。では、今日は、『運命』の秘密を探っていこう」	3
展開	3. ベートーヴェンについて知る。【全体】	「ピアノ曲も交響曲もいろいろな曲を作っているんだね、すごい」 「ベートーヴェンは、音楽の世界に新しい風を吹かせた人なんだね」	『運命』について探っていくために、まずはベートーヴェンについて説明します	6
	4. 冒頭部分の音形は「動機」ということを知る。【全体】	「ジャジャジャジャーんだね」 「いろんな音の高さで出てきた」 「ずっと聞こえてきていたよ。」 「動機っていうのか」 「えっ！海外に行って『運命』って言っても通じないの…？」 「“運命”ってぴったりだと思うけど、ベートーヴェンが付けたわけじゃないんだ…びっくり」 「鳥？何か関係があるのかな」 「えっ。扉をたたくじゃないんだ」 「この鳴き声の方がしっくりくる」 「ツェルニー説は意外だった」 「でも、ぼくはやっぱりシンドラ派かな」	「ベートーヴェンの基本情報を知ろう」 ※PowerPointを使って説明する。 「この曲の冒頭部分で印象的なフレーズって何かな」 「うん、たくさん出てきていたね」 「今みんなから出てきた“ジャジャジャジャー”というフレーズは、“動機”と呼ばれています」 「ところで、先生こんな動画を見つけたのだけど、ちょっと聴いてみて」 「さっき、〇〇さんが“何で『運命』っていうタイトルなの？”って言っていたけど、実はこの曲を『運命』と呼ぶのは日本人くらいなのだよ」 ※シンドラの説を取り上げる。 【キアオジの鳴き声の動画】 「ツェルニーという人は、この“キアオジ”の鳴き声だって言っているのだよ」 「いろんな説があるみたいだよ。」	10
終末	5. 「動機」に着目し、再度第1楽章を聴く。	「ずっとジャジャジャジャーんってなっているね」 「動機は全部数えてみたらいくつあるのかな」	「もう一度第1楽章を聴いて、「動機」がどこに出ているか確かめてみよう」 「どれくらい出てくるのかな」	10
	6. 振り返り	「どうしてベートーヴェンは、どの楽章にも『動機』を入れたのだろうか」 「『動機』は、ベートーヴェンの気持ちの表れかもしれないな」	【本時の評価(評価する対象)】 「動機」が「交響曲第5番」を印象付ける要素になっているということに気づくことができる。 (ワークシート)	5

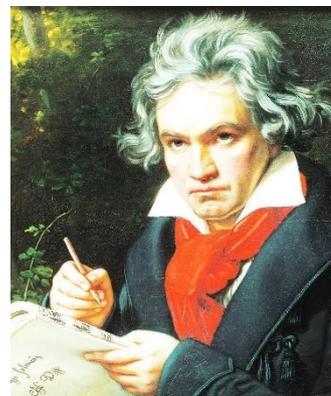
交響曲第5番 ハ短調

*第1楽章を聴いて、感じたこと・知っていること・知りたいこと…などを書き出そう！

*「交響曲第5番」や作曲者について分かったことをメモしよう。

→ () はどんな人？自分の言葉でまとめてみよう！

作曲者：
()



これは _____ と言います。

*今日の感想・次回に向けて